

校種 (学級種別)	小学校 (自閉症・情緒障がい特別支援学級)	本事例の 教科等名	自立活動					
在籍児童 生徒の実態	○自分の考えや気持ちを言語化することが苦手。 ○いやなことや困ったことがあると、自分の気持ちをうまく表現できず、黙る、泣く、立ち歩く、固まる、などの様子が見られた。 ○気持ちと表情、色をリンクさせて考えることで、イメージを持ちやすくする。	目標・ 指導 内容	【目標】 ○自分の気持ちを伝えることができる 【指導内容】 ○情緒の安定 ○気持ちを表したカードを作成し、活用して気持ちを伝える					
指導の経過・ 工夫点・ 子どもの変 容	○「カラーモンスター」（永岡書店 アナ・レナス作）という絵本を読み聞かせる。 この絵本は、複雑になっているモンスターの気持ちを色で整理しようという内容の絵本。 読み聞かせを行うことで、気持ちについて学習していくという見通しを持たせた。 ○自分の気持ちカードを作成する 表にカラーモンスターのイラストを付けておき、表情から考えられる感情を子どもたちからあげてもらい、裏に感情シールを貼っていった。追加したい気持ちがあれば、先生に知らせて随時増やすことができるようにした。 「自分の色のイメージで作りたい」という声があり、その子にはイラストなしの色カードを用意した。							
	(気持ちカードの表) <table><tr><td>怒っている 赤いモンスターの絵</td><td>ハンモックに寝ている緑のモンスターの絵</td><td>雨が降っている青のモンスターの絵</td></tr><tr><td>花の中にいるピンクのモンスターの絵</td><td>枯れた木の枝にいる黒いモンスターの絵</td><td>笑顔の黄色いモンスターの絵</td></tr></table> (気持ちカードの裏) 			怒っている 赤いモンスターの絵	ハンモックに寝ている緑のモンスターの絵	雨が降っている青のモンスターの絵	花の中にいるピンクのモンスターの絵	枯れた木の枝にいる黒いモンスターの絵
怒っている 赤いモンスターの絵	ハンモックに寝ている緑のモンスターの絵	雨が降っている青のモンスターの絵						
花の中にいるピンクのモンスターの絵	枯れた木の枝にいる黒いモンスターの絵	笑顔の黄色いモンスターの絵						
成果と課題・ 今後の方向	○気持ちカードの活用 ・作ったカードを相手に見せながら、気持ちを伝えるとよいことを指導した。子どもが困って固まっているときに、カードを見せながら「どんな気持ち？」と尋ね、モンスターの顔や感情シールを指さしながら答えるように練習した。 ・モンスターの表情や周りの様子を見ながら、気持ちを考えることができていた。 ・活用を続けていく中で、自分の気持ちに変化していくようすも伝えることができるようになってきた。 ・特別支援学級以外の友だちが困っているときに、自分のカードを見せながら「今、どんな気持ち？ 悲しい気持ち？」「謝ってもらったら、この気持ちに変わる？」と声をかけることができていた。							
	○成果 ・気持ちを表す言葉を出し合うことで、語彙を増やし、その時にぴったりの気持ちを表現できるようになってきた。 ・だんだんとカードがなくても、気持ちが言えるようになった子がでてきた。 ・モンスターの表情から感情の言葉を引き出すことができたので、絵本の読み聞かせは有効だったと感じた。							